

令和7年度 第2回 吹田市公共施設最適化推進委員会 議事概要(1)

日 時:令和7年(2025年)10月2日(木)午前10時～午前11時

場 所:吹田市役所 高層棟4階 特別会議室 及び オンライン

出席者:<特別会議室に参集>

辰谷副市長(委員長)、春藤副市長(副委員長)、大江教育長(副委員長)、  
伊藤理事(公共施設整備担当)、山下総務部長、今峰行政経営部長、清水都市計画部長、  
井田学校教育部長、二宮地域教育部長

<庁内テレビ会議システムにより出席>

岡田危機管理監、脇寺都市魅力部長、道場児童部長、北澤理事(子育て支援センター担当)、  
岡松健康医療部長、松林保健所長、道澤環境部長、真壁土木部長、山田消防長

所 管:【地域教育部 放課後子ども育成室】堀次長、芦田参事、山下主幹、安武主査

案件	豊一留守家庭児童育成室における増築について
【案件概要】	
豊一留守家庭児童育成室において、入室希望児童数の増加に伴う教室不足を解消するため、リース方式によるプレハブの増築を行い、留守家庭児童育成室を確保することについて確認するもの。	
【所管部の考え方】	
入室率の継続的な上昇による育成室需要の増加や、豊津第一小学校既存校舎内に転用可能な教室が無い状況を踏まえ、同校敷地内に育成室棟を増設し、育成室の部屋不足解消を図る。	
整備に当たっては、令和12年度から学校建替え検討が始まることや、将来対応の柔軟性、工期・コスト等を総合的に勘案し、国庫補助を活用したプレハブリースとする。	
【質疑概要】	
意見： 就学前児童の保育率の上昇に伴い、学童保育の需要も増加することが見込まれ、増築という現在の対応には限界がある。ハードの問題のみならず、指導員不足といったソフト面も課題となってくる。今後、例えば、児童センター等、他の公共施設で見守りを行うなどの形を合わせて考えていく必要がある。	
意見： 所管では学校施設内での確保とは別の方法も模索している。今後の話として、プレハブ建設による方法が、コスト面や学校運営面も考えて最善な方法であるか、他の公共施設の活用も含めた新たな方法を全庁的に考えていく必要があると思う。	
質問： 撤去物件や遊具移設について、リース費用に含まれているか。	
回答： 遊具の移設についてはリース費用に含める予定である。撤去物件については別途、学校管理課と調整中である。	
質問： 地盤改良の必要性については把握しているか。	
回答： 事業者決定後に地盤調査を行い、必要性を判断する。	
質問： 今後の留守家庭児童育成室の部屋不足に対して「適宜対応する」とは具体的に何か。	
回答： 運営に当たっては課題があると認識している。今般、私立幼稚園の協力により、既存の同園において	

留守家庭児童育成室を開設していただくという一つの舵切りをした。今後も見込まれる入室希望児童数の増加に対して、持続可能な形で運営できるよう、入室の方針にも踏み込んで検討する必要があると考えている。

質問： 必要な機能や諸室等について、標準仕様があるのではないか。当案件特有の何かがあるのか。

回答： トイレの入り口などを別に設ける等、レイアウトについて指導員の意向も確認しながら仕様を決めていければと考えている。

意見： 意見を聴くことを否定はしないが、当初の見込みと全然違うものになるのは困る。実績があるのだから標準的なベースに置き進めてほしい。

意見： 今後の子どもの放課後のあり方を、学童に通う児童が昔と逆転して多数派になり、この先も増加傾向と思われる中、今の考えのまま 4 年生までの事業としていってもいいのだろうか。また、現状を踏まえると、年度当初と年度末や、長期休業期間と平常授業期間など、登録児童数と実際利用児童数の関係等について、実態を踏まえたより詳細の分析をしてニーズの見極め、例えば、児童センター、図書館、体育館等の他の公共施設も活用した積極的な受入れ事業を展開する等、市全体で子どもの居場所を考えていく必要があるのではないかと思う。

意見： 当案件について、今後の話も含め様々な意見をいただいたが、提案どおり進める。

#### 【結果】

当案件について、方向性が確認された。